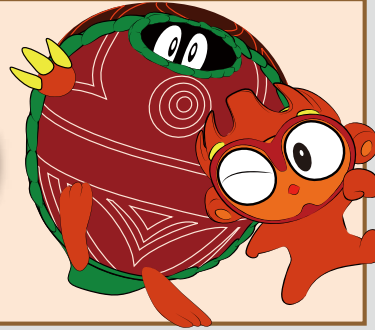


加須市

大発見！ 利根川堤防の始まり

きゅうとねがわ ていぼうあと みやひがしいせき
— 旧利根川堤防跡・宮東遺跡 —

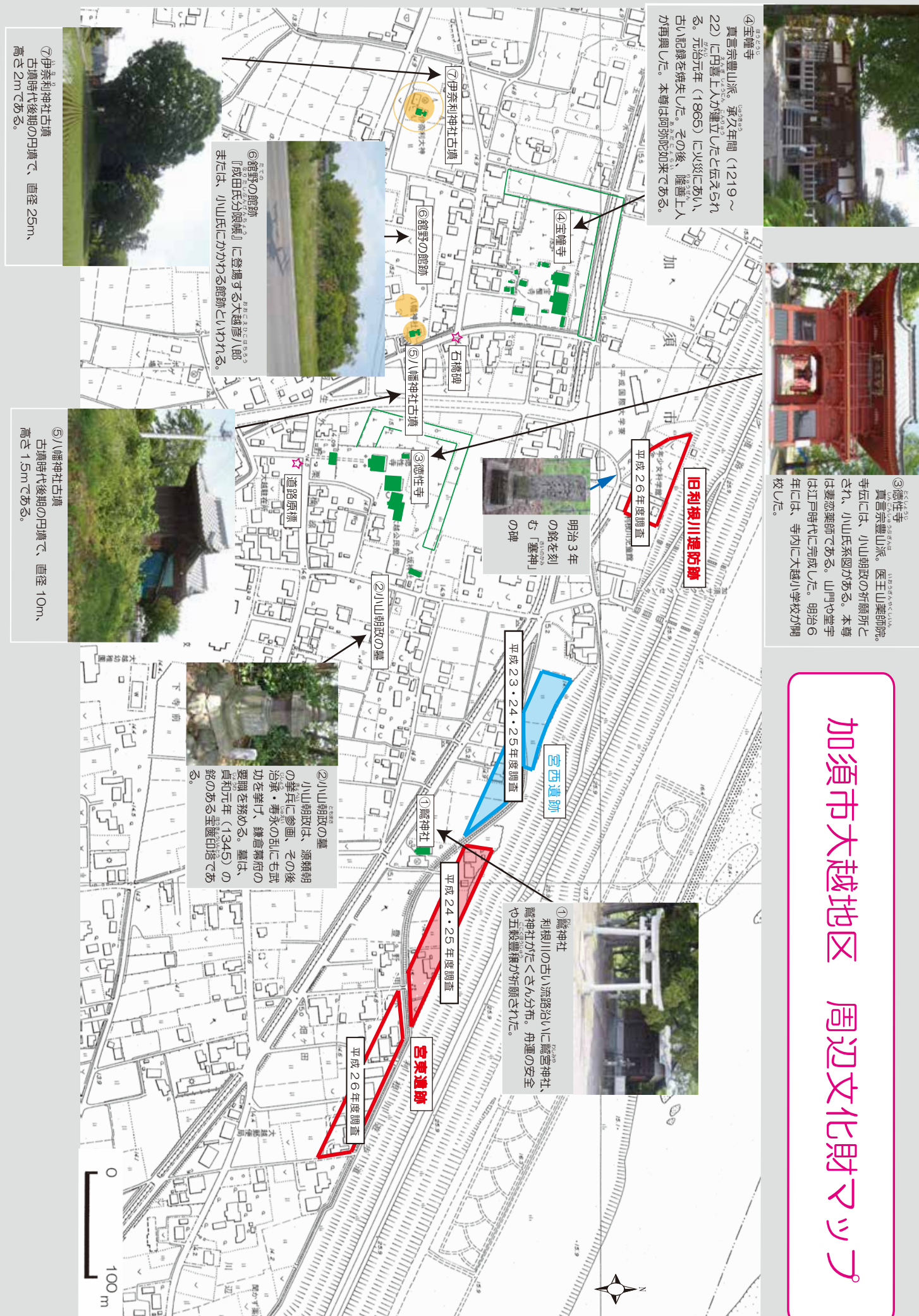


公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、首都圏汜濫区域堤防強化対策工事に先立ち、加須市大越地区の発掘調査を実施しています。今回は、江戸時代から明治時代にかけて造られた旧利根川堤防跡と古墳時代から江戸時代にかけての集落跡が発見された宮東遺跡をご紹介します。



主催：公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：埼玉県教育委員会 加須市教育委員会
国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所

加須市大越地区 周辺文化財マップ



加須市大越

きゅうとねがわていぼうあと

旧利根川堤防跡

江戸時代から明治時代にかけて、何度も補強や補修を繰り返した利根川の堤防跡が発見されました。発掘調査によって堤防が築かれる前には、室町時代から戦国時代末ごろの墓地であったことがわかりました。

このことから、築堤は江戸時代初めごろから始まったと考えられます。これは、江戸幕府による利根川の東遷事業の始まりを考古学的に裏付ける画期的な発見です。

明治 17 年当時の堤防

利根川の流れ

旧利根川堤防跡

宮東遺跡

加須市大越

みやひがしいせき

宮東遺跡

宮東遺跡では、3つの時代（中近世・古代・古墳時代）の調査を行っています。
たてあなしゅうきょあと ほったてはしらたてものあと
竪穴住居跡や掘立柱建物跡などで構成されるムラの一部や土器などが発見されました。

① 盛土の状況

堤防の法面は、明治時代以降に古い堤防を階段状に整形し、盛土しました。

盛土の状況

堆積層(堤防盛土)

堆積層(堤防盛土)

階段状の整形

② 堤防の構築状況

堤防の芯となる部分を川砂にして、それを覆うように粘土や砂を交互に積んだ盛土が発見されました。これによって初期の堤防の構築過程が明らかになりました。北側では、幅 5m 以上にわたって土と小石まじりの砂が互層に積み重なっています。南側は土で覆われ、一定の厚さで構築されていました。

② 堤防の断面写真

南側

北側

堤防のつくり方

南側

北側

赤色 現表土 / 水色 砂の盛り土 / 茶色 盛り土 / こげ茶色 砂の基盤

③ 宮東遺跡 空中写真

④

⑤

写真④は、奈良時代の掘立柱建物跡の柱穴の跡です。残念ながら、調査区外に続いたため規模は明らかになりませんでした。
写真⑤は、近世以降に使用されたと考えられる井戸跡です。井桁状に組まれた木組みが発見されました。